

年金基金だより

— 令和4年度決算版 —



表紙写真＝オランダ／アムステルダム 聖ニコラ教会

旭化成企業年金基金

〒882-0053 宮崎県延岡市幸町三丁目101番地
延岡駅西口街区ビル4階

電話：0120-681-835（フリーコール）
：0982-22-2429（代表）

Email：kikin@om.asahi-kasei.co.jp

ホームページ：http://www.asahikasei-kikin.or.jp

令和4年度決算のお知らせ

7月13日に開催されました第48回代議員会で、当基金の令和4年度の決算および財政検証結果が承認されましたので、その概要をお知らせいたします。

■令和4年度の市場概況について

令和4年度は、各国の金融引締め姿勢が継続し、金利が上昇しました。その影響により債券のリターンは低迷し、同時に景気後退への懸念から、上場株式も外国株については軟調に推移しました。こうした市場の状況のもとで、当基金の運用実績は▲0.16%とわずかにマイナスのリターンとなりました。

年金経理

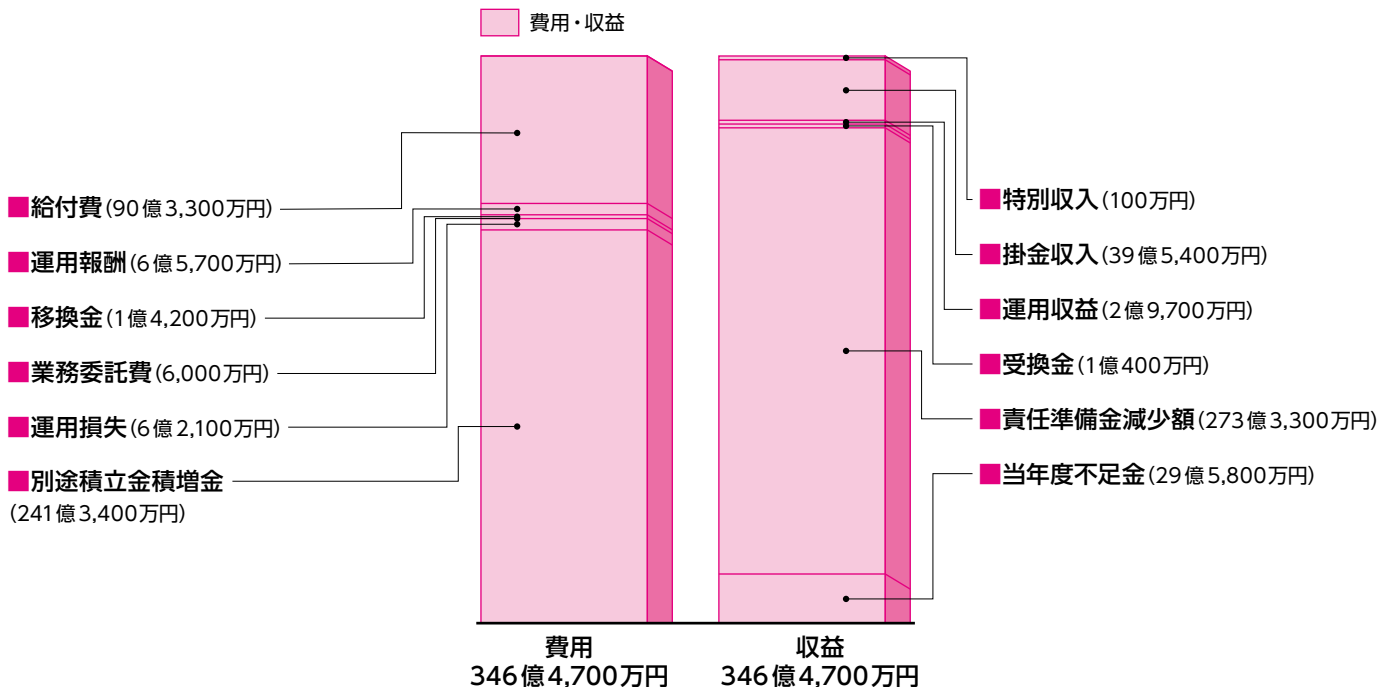
年金の給付や掛金の受け入れ、年金資産の管理運用などを行う経理です。

1年間の収支状況 (損益計算書)

273億3,300万円の責任準備金減少額が発生しました。

令和4年4月1日～令和5年3月31日

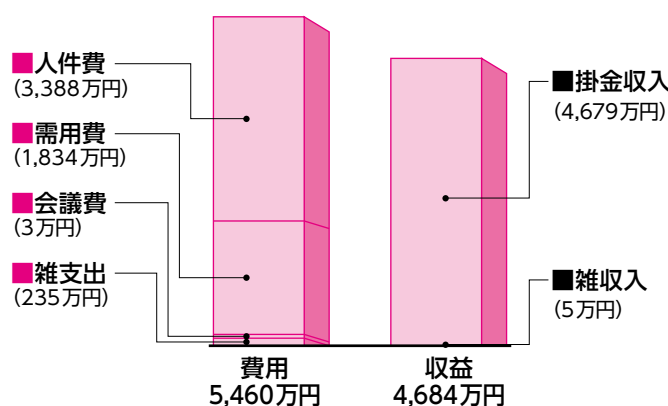
当年度決算(経常収支)では、支出総額が105億1,300万円に対し、収入は43億5,500万円となりました。今年度は2億9,700万円の運用収益を得ました。



業務経理

業務会計

基金を運営するための経費を処理する会計です。各種費用の見直しを行い経費削減に努めました。



■年金資産の積立状況について

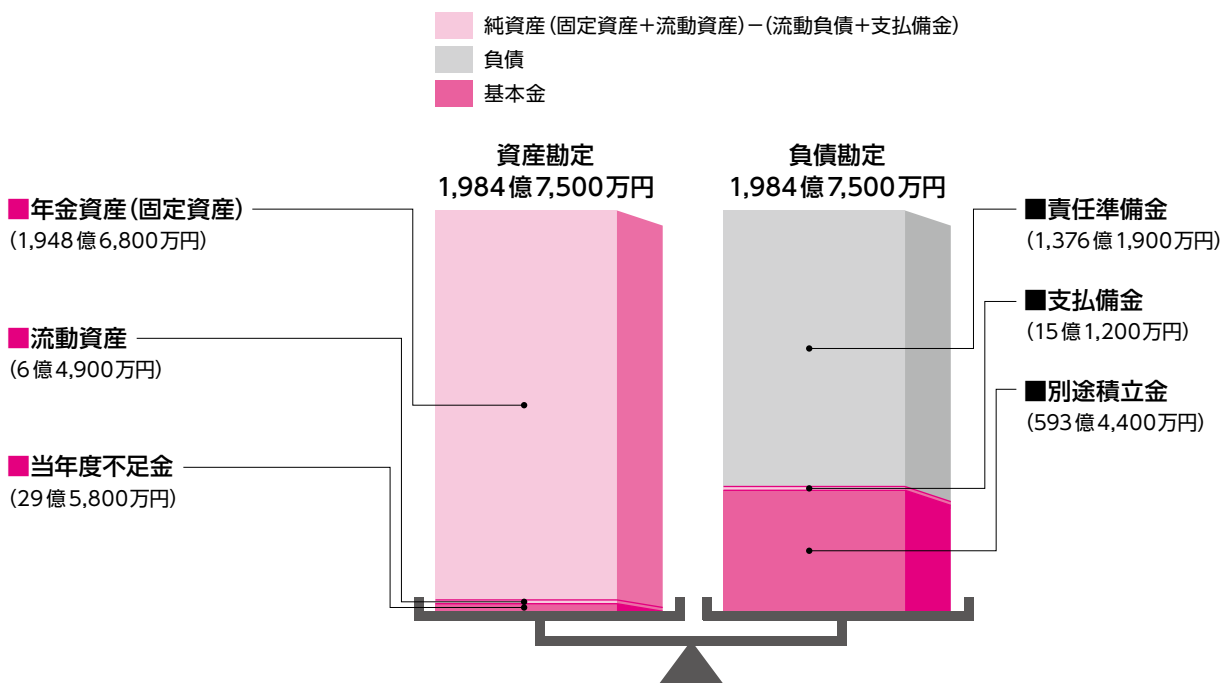
当年度の積立状況は、年金資産額(固定資産)が59億3,300万円減少し、1,948億6,800万円になりました。

資産と負債のバランス (貸借対照表)

年金資産(固定資産)は1,948億6,800万円となりました。

令和5年3月31日現在

当年度末における年金資産(固定資産)は、1,948億6,800万円となりました。一方、将来の年金給付のために積み立てられているべき責任準備金は1,376億1,900万円となっています。



基金では財政検証を実施しています

基金では、加入者・受給(権)者の皆さまの受給権保護のために、決算期ごとに年金資産の積立状況を2つの方法(継続基準、非継続基準)で検証しています。検証の結果、基準値をクリアしていない場合は、財政計画の見直し(変更計算)が必要になります。

■継続基準

将来の給付への備えに対して、財政計画上、現時点で保有しておくべき年金資産が積み立てられているかを検証します。

$$\frac{\text{純資産額}}{\text{責任準備金}} = 1.40 \text{ (基準値: 1.0以上)}$$

●検証結果

純資産額が責任準備金を上回っており、基準値をクリアしています。年金資産は順調に積み立てられており、掛金の見直しを行う必要はないことが確認されました。

■非継続基準

現時点で基金が解散したと仮定した場合に、加入者・受給(権)者への年金給付を賄う年金資産が積み立てられているかを検証します。

$$\frac{\text{純資産額}}{\text{最低積立基準額}^*} = 1.16 \text{ (基準値: 1.0以上)}$$

●検証結果

最低積立基準額に対する純資産額の割合が、基準値である1.0を上回っており、基準値をクリアしています。積立水準を確保するための措置を行う必要はないことが確認されました。

* 最低積立基準額: 現時点で基金が解散したと仮定した場合に、加入者・受給(権)者の加入期間に見合った給付を賄うために必要な年金資産。

データで見る決算

年金経理

年金の給付や掛金の受け入れ、年金資産の管理運用などを行う経理です。
資産額は時価により、表示しています。

■貸借対照表(令和5年3月31日現在)

(百万円)

資産勘定		負債勘定	
科目	決算額	科目	決算額
1. 純資産			
流動資産	649	流動負債	0
(預貯金)	(325)	(未払運用報酬等)	(0)
(未収掛金)	(324)	(未払業務委託費)	(0)
(未収受換金その他)	(0)	(預り金)	(0)
固定資産	194,868	支払備金	1,512
(信託資産)	(170,404)	(未払給付費)	(1,478)
(保険資産)	(24,464)	(未払移換金)	(34)
計	195,517	計	1,512
2. 負債			
		責任準備金	137,619
計	0	計	137,619
3. 基本金			
繰越不足金	0	別途積立金	59,344
当年度不足金	2,958	当年度剰余金	0
計	2,958	計	59,344
総合計	198,475	総合計	198,475

用語の説明

流動資産

現金や普通預金などと、当年度分の掛金収入などで、入金が翌年度になる分。

固定資産

年金給付のために積み立て、運用を行っている年金資産。

流動負債

当年度分の費用のうち、支払いが翌年度になる分。

支払備金

年金や一時金の支払時期が来ているが、実際の支払いが翌年度になる分。

責任準備金

年金給付のために、現時点で積み立てていなければならない積立金の必要額。

業務経理・業務会計

基金を運営するための経費を処理する会計です。

■損益計算書(自令和4年4月1日 至令和5年3月31日)

(千円)

費用勘定		収益勘定	
科目	決算額	科目	決算額
役職員給与	20,996	掛金収入	46,793
役職員諸手当	12,761	雑収入	50
旅費	122		
代議員旅費	0		
需用費	18,342		
会議費	33		
雑支出	2,353		
代議員会需用費	0		
代議員会会議費	0		
計	54,607	計	46,843

■繰越剰余・不足金の状況(令和5年3月31日現在)

(千円)

科目	決算額	科目	決算額
前年度繰越不足金	0	前年度繰越剰余金	25,437
当年度不足金	0	当年度剰余金	▲7,764
計	0	計	17,673

- ・業務経理の掛金は、会社が拠出をしています。
- ・不測の事態に備えて、最低でも年間支出総額の12分の3(3か月分)が次年度繰越剰余金として期末に残る予算としております。

令和4年度 決算のお知らせ

■損益計算書(自令和4年4月1日 至令和5年3月31日)

(百万円)

費用勘定		収益勘定	
科目	決算額	科目	決算額
1. 経常収支			
給付費	9,033	掛金収入	3,954
移換金	142	受換金	104
運用報酬	657	運用収益	297
業務委託費	60		
運用損失	621		
計	10,513	計	4,355
2. 特別収支			
特別支出	0	特別収入	1
繰入金	0	受入金	0
計	0	計	1
3. 負債の変動			
責任準備金増加額	0	責任準備金減少額	27,333
計	0	計	27,333
4. 基本金			
繰越不足金処理金	0	別途積立金取崩金	0
別途積立金積増金	24,134	当年度不足金	2,958
当年度剰余金	0		
計	24,134	計	2,958
総合計	34,647	総合計	34,647

用語の説明

給付費

年金や一時金を給付した額。

掛金収入

加入者と会社からの掛金。

移換金/受換金

基金を脱退・再加入した人の年金原資を、企業年金連合会とやりとりした分。

運用報酬

資産運用を委託する信託銀行、生命保険会社、投資顧問会社に支払った手数料・報酬。

業務委託費

基金が業務の一部を委託した機関に支払った手数料。

運用収益

年金資産を信託銀行や生命保険会社、投資顧問会社などの運用機関で運用して生じた収益。

特別支出/特別収入

雑収入や掛金の徴収不足分など。

〈基金の業務概況〉

(令和5年3月31日現在)

●加入者数

計	12,987人
---	---------

●受給待期者数

裁定済待期者	120人
未裁定待期者	276人
合計	396人

●給付状況

老齢給付金	年金	8,810件	6,224,747,600円
	一時金	249件	2,286,923,100円
脱退一時金	117件	206,125,100円	
遺族給付金	54件	266,159,600円	

〈掛金拠出状況〉

リスク分担型企業年金以外	納付決定額		納付済額		不納欠損額	未納額
	標準掛金	2,664,768,363円	2,664,768,363円	0円	0円	
リスク対応掛金	1,305,372,000円	1,305,372,000円	0円	0円		
事務費掛金	46,792,500円	46,792,500円	0円	0円		

当月分を翌月末納付 納付率100%

〈まだ年金を受け取っていない(受給待期者)方へ〉

令和5年度の第三年金の運用利率が0.1%に決定しましたので、お知らせいたします。なお、利率は下記により決定いたします。

利率：10年国債の応募者利回りの過去5年平均

※参考までに過去の利回りは右記の通りです。

令和4年度	0.0%	令和元年度	0.2%
令和3年度	0.0%	平成30年度	0.3%
令和2年度	0.1%	平成29年度	0.5%

令和4年度 資産運用結果レポート

運用利回りは▲0.16% 資産残高合計1,949億円

■令和4年度の当基金の運用結果

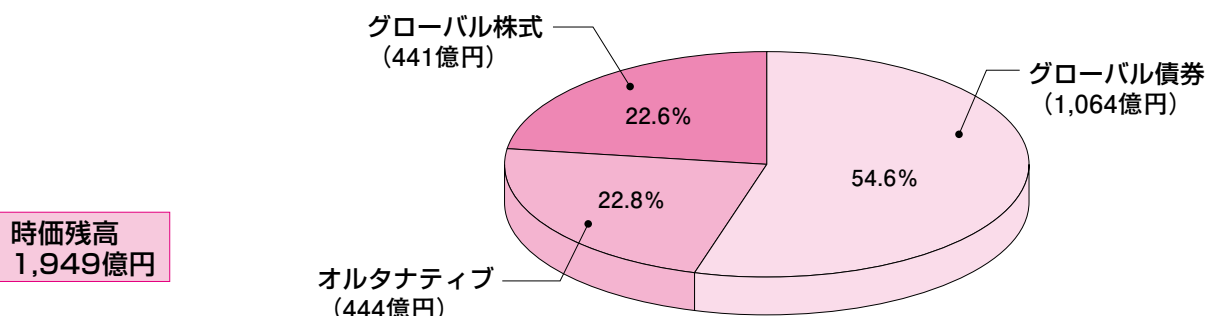
米国・欧州ともにインフレ抑制のための金融引締め姿勢は変わらず、景気後退懸念から株式は軟調に推移しました。債券も金利上昇の影響を受け、厳しい局面が続きました。為替は対円でドル高、ユーロ高方向に推移しました。基金全体では▲0.16%となりました。

■令和4年度 資産構成別運用結果 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

	当基金の収益率 (a)	市場の収益率 (b)	差異 (a) - (b)
資産全体	▲0.16%	▲2.97%	2.81%
グローバル債券	▲3.72%	▲4.55%	0.84%
オルタナティブ	8.76%	▲5.49%	14.25%
グローバル株式	▲0.19%	2.02%	▲2.21%

■令和4年度末 資産構成割合

各資産に分散投資してリスク分散を考慮しながら運用しています。



■基本ポートフォリオについて

当基金では、中長期的に必要な収益を確保するために最適な資産配分である「基本ポートフォリオ」を策定し、これを遵守しながら資産運用を行っています。

基本ポートフォリオは制度変更や大幅な人員構成の変化など、前提条件の大幅変更がない限り5年程度は維持し、長期運用を行います。

■新基本ポートフォリオ

グローバル債券 55%	オルタナティブ* 20%	グローバル株式 25%
----------------	-----------------	----------------

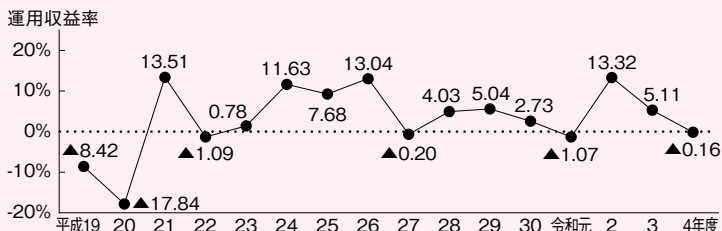
*オルタナティブとは債券、株式以外のことで、不動産、ヘッジファンドなどの資産。債券、株式との分散投資効果や収益源泉の多様化を期待しています。

■基金の資産運用

年金資産は長期運用

資産運用は市場環境に影響を受けますので、単年度で見ると目標とする運用利回りを達成できない場合もあります。しかし、基金制度は長期間にわたって制度が継続するよう設計・運営されており、資産運用においても、中長期的に収益を確保することを目標としています。

■運用収益率の推移 (平成19年度～令和4年度)





心がけや社会活動への参加が健康状態に影響～高齢者の健康～

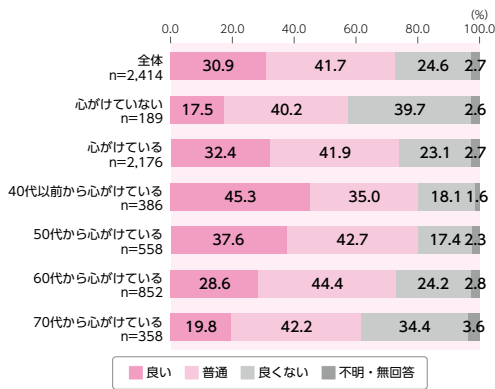
内閣府の「令和5年高齢社会白書」では、高齢者の健康をめぐる動向が取り上げられています。

若いときから健康を心がけている人は健康状態が「良い」割合が高い

内閣府が公表している「令和5年高齢社会白書」では、休養や散歩など健康についての心がけと現在の健康状態について調査を行っています。それによると、健康を「心がけている」と回答した人は「心がけていない」と回答した人よりも健康状態が「良い」と回答する人の割合が高い結果となっています(図表1参照)。

また、40代以前から健康を心がけ始めた人のうち約半数は健康状態が「良い」と回答しているなど、若いときから健康を心がけ始めた人は健康状態が「良い」と回答する割合が高くなっています。このほか、スポーツやウォーキングなどの健康活動を50代から行っている人は、「健康状態は良い」と回答した割合が高く、早めに健康を意識して活動することが、後の健康状態に良い影響を与えると考えられます。

図表1 ● 健康についての心がけ・心がけ始めた年齢と健康状態



(注1)「良い」は「良い」と「まあ良い」の合計。「良くない」は「あまり良くない」と「良くない」の合計
 (注2)「70代から心がけている」の対象は全て70歳以上である。
 (注3)四捨五入の関係で、足し合わせても100.0%にならない場合がある。

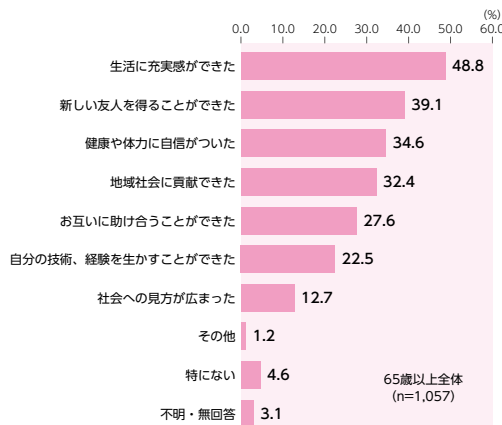
健康と生きがいは強い相関関係に

また、同白書では、社会活動(健康・スポーツ・地域行事、趣味など)に参加した人も健康状態が「良い」と回答した割合が高い結果となりました。社会活動に参加してよかったと思うこととしては、「生活に充実感ができた」「新しい友人を得ることができた」「健康や体力に自信がついた」の順で高くなっています(図表2参照)。

一方、社会活動に参加したいと思わない理由としては、「健康・体力に自信がないから」「人と付き合うのがおっくうだから」「家庭の事情(病院、家事、仕事)があるから」の順で高い結果となっています。

また、健康状態とよろこびや楽しみといった生きがいについての調査では、現在健康状態が「良い」と回答した人ほど生きがいを感じる程度が高く、健康状態と生きがいには非常に強い相関関係があるとされています。

図表2 ● 社会活動に参加して良かったと思うこと



*図表1、2ともに「令和5年高齢社会白書」より。

基金事務局より

平素は当基金の運営にご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

2023年4月より理事長を引き継ぎました、人事部長の内炭と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2022年度は、財政状態の検証である財政再計算を実施しました。ここ数年の好調な運用結果もあり、基金財政は継続して良好な状態を保っており、別途積立金の積み増しを行いました。

しかし、2022年度の運用実績としては、昨年度から継続する各国の金融引締め姿勢による金利の上昇、その

影響による債権のリターン低迷、また、景気後退への懸念から株式も軟調に推移しました。不動産やヘッジファンド等のオルタナティブと呼ばれる資産が下支えをしたものの、基金全体ではわずかにマイナスのリターンとなりました。

ただし、前述の通り財政状況は引き続き良好な状態を保っておりますので、ご安心いただければと思います。

先を見通すことが難しい環境が続きますが、基金としては今後も市場の動向を注意深く見守りながら、長期的に安定した運用・運営を心がけてまいります。

引き続き、基金の状況をお伝えしていきますので、今後ともご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

旭化成企業年金基金 理事長 内炭 広志

十二湖の森

てくてく歩く 日本の絶景



写真提供：PIXTA

問 十二湖ビジターセンター

〒038-2206

青森県西津軽郡深浦町大字松神字
松神山国有林82林班

TEL 0173-77-2138

URL ▶ <https://www.fukaurajuniko.com/>

開館時間 8:30~16:00
(4月1日~11月30日)
※12月~3月末 施設閉館

秋田県と青森県の県境に広がる世界自然遺産白神山地の麓には、豊かなブナの原生林に囲まれた33の湖沼群「十二湖」があります。神秘的なコバルトブルーの青池や沸壺わきつぼの池を巡る2〜3時間の散策コースをはじめ、多彩な湖沼群を巡るコースが複数存在します。コースは「森林セラピー®ロード」に認定されていて、リラックス効果や血圧の低減、脳の鎮静効果が医学的に認められています。ぜひ、秋の森林で癒やされてください。